

6 月朝礼講話

皆さんおはようございます。

南稜祭が終え、その前は中間テストを終え、1 学期の折り返し地点にいるかと思います。

先日の南稜祭は私からの感想は、大変素晴らしいものでありました。3 年生がクラスごとにダンスパフォーマンスを行う学校は初めてでした。これまでの学校は有志団体か部活動単位で実施してきたように思います。一人一人がクラスのために一生懸命に練習した成果がはっきりと現れていて、見応えのあるものでした。これは4 月に私が新任式・始業式で、2、3 年生に対して友を大切にしてほしいと言ったことを体現してくれたように思えました。

1 年生は入学式の時にそのことを言っておりませんでした。2、3 年生には3 つのことを頭に入れてほしいと伝えました。一つは授業は大切に受けてほしいということ。二つ目は友を大切に、支えあってほしいということ。三つ目は、たくさん失敗してほしいということ、以上3 つを伝えました。その2 つ目に当たるわけです。

一生懸命踊ると人は感動します。感動すると応援したくなります。3 年生のダンスの最中、2 年生は拍手をし、1 年生は身を乗り出して見ていました。そうした光景を見て大変嬉しく思いました。

そこで今日は、一生懸命物事に取り組むと応援する人が出てくる話をしたいと思います。

今から 20 年以上前の夏、私は家族旅行で関東・東北方面を車で回っていました。群馬県のとある美術館へ何の気なしに立ち寄りました。そこには水彩画で描かれた草花の絵が飾られ、その横には詩が寄せられていました。素晴らしい絵だなと思って感心して見ていたが、驚かされたことは、それを描いている人は手足の自由を失った人であったということです。

先生方で知っておられる方もいると思いますが、その人は星野富弘さんという元中学校の体育の先生でした。星野さんは今から 52 年前の 6 月 17 日、中学校の教員になったばかりの時に、放課後マット運動の着地に失敗し、頸椎損傷により首から下の自由を失ったのです。

今皆さんが同じような状況下におかれたらどうでしょうか。少し考えてみてください。星野さんはただただベッドの上で横たわる毎日で、手足は使えませんので、母親がご飯を口に運びます。時には星野さんは口から吐き出したりして母親を困らせますが、当然でしょう。体操の先生で筋肉の塊のような方が、突然手足の自由がなくなってしまったわけですから、気持ちはすさむと思います。下の世話も大小とも母親がお腹をさすって出すことで世話をしたそうです。星野さんはこんな生活はいつまでも続けられないと、何度も死ぬことを考え、手足が使えないので舌を噛み切ろうとしたそうですが、それもかなわなかったそうです。横たわる星野さんに母親は本を読ませたり、テレビを見せたりしましたが心は晴れません。

2年ぐらいしたある時、星野さんは口でペンをくわえて文字を書いてみました。蛇ののたかったような字でしたが、その時初めて星野さんは手足が使えなくても何かできることを見つけます。字はやがて絵に変わり、目の前に飾られた草花を見て、筆を口にくわえて画用紙に色をつけていきました。母親も偉い方で、星野さんの要求する色を出しては星野さんが色を組み合わせで描いていきました。そして星野さんはその絵にちょっとした言葉をつけていったのです。

10年近く病院にいたそうですが、退院しても屋外へ行けるように車椅子を制作してもらいました。特注で顎を利用して動くもので、星野さんは再び外の世界を目にして、またそれを絵に描いていきます。そんな星野さんの絵を見て感動した方々が、個展を開いてくれることになりました。個展を開くやたちまちのうちに絵は売れ、やがて星野さんの手助けをしたという人が現れ、星野さんは結婚します。さらにその絵を集めた美術館が建てられていったのです。星野さんは70歳を超えて現在も健在です。そして今もお草花の絵を描いて、横に詩を寄せて描き続けています。

人は何かに向けて一生懸命になっていると、必ず応援してくれる人が出てきます。その一例ではありますが、星野さんも最初の2年間は「どうして自分だけがこんな目に遭うんだ」と否定的な生き方をしていました。生きる苦しみの中から、絵を描くことで少しずつ自分の役割や方向が見えてきて、そしてそれを支える人たちが増えていきました。

今皆さんの中にもどうして自分だけ不幸なんだと思っている人もあろうかと思います。しかし何か一つでも打ち込むものができたら変わってくると思います。例えば毎日日記を書いてみる。毎日腕立てふせをやってみる。…こうしたちょっとしたことが積み重なっていくと半年、1年たつと何か残るものが出てきて、そしてそれを応援する人が出てくる。そんな気がします。是非今日から自分にできることを探してみてください。

(令和4年6月10日、朝礼)